

令和 6 年 6 月 12 日現在

機関番号：32642

研究種目：基盤研究(A) (海外学術調査)

研究期間：2017～2022

課題番号：17H01637

研究課題名(和文) アフリカ観光の新潮流と少数民族社会の再編：「プロジェクト型観光」に着目して

研究課題名(英文) "Project-style Tourism" and the reorganisation of ethnic minority communities in Africa

研究代表者

丸山 淳子 (MARUYAMA, Junko)

津田塾大学・学芸学部・教授

研究者番号：00444472

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 32,300,000円

研究成果の概要(和文)：観光産業と開発援助が一体化し「自然保護」「文化保全」「貧困削減」など達成すべき目的を掲げた「プロジェクト」として進められる観光の新潮流を「プロジェクト型観光」と概念化した。そして、「プロジェクト型観光」によって かつてないほどに多様なアクターが地域社会に関与するようになり、自然や文化が観光資源とみなされるようになること、アフリカの少数民族社会をめぐって社会的境界が維持・転換・再創造されること、一方で、少数民族社会の周縁的地位の固定化や、社会内部の分断が起きることもあることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

観光産業と開発支援の複合というアフリカの新潮流を、「プロジェクト型観光」という概念を用いることで包括にとらえることに成功し、その進行が少数民族社会にもたらす正負のインパクトを地域の文脈に即して明らかにすることができた。この成果を、アフリカ地域研究や観光学の分野に新たな知見をもたらすとともに、日本やアフリカにおける観光や地域開発に携わる人々・組織とも共有することができた。

研究成果の概要(英文)：The new trend of African tourism in which the tourism industry and development program are integrated and promoted as a 'project' with objectives such as 'nature conservation', 'cultural preservation' and 'poverty reduction' is conceptualised as 'project-style tourism'. It has become clear that 'project-style tourism' (i) involves an unprecedentedly diverse range of actors in local communities and that nature and culture are regarded as tourism resources; (ii) maintains, transforms and re-creates social boundaries around minority ethnic communities; and (iii) on the other hand, fixes the peripheral status of minority ethnic communities and fragments within the societies.

研究分野：地域研究

キーワード：アフリカ 観光 開発 自然保護 文化継承 地域社会 貧困削減

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

世界観光機構が、2002年の「持続可能な開発に関する世界首脳会議」を契機に「観光開発を通じた貧困削減プロジェクト」を開始して以降、いわゆる発展途上国の住民を積極的に観光に参加させることによって、地域の社会経済状況が改善するという考え方がグローバルに普及するようになった。観光客の側にも、ホストとなる地域社会の人々との交流や学習を求める「ニュー・ツーリズム」の潮流のなかで、物見遊山的に見物するだけでなく、観光をとおしてホスト社会の問題解決のために貢献したいと考える人が増加している。いまや観光には、単に観光客にとっての「楽しみ」を提供する産業という枠を超え、これまで開発プロジェクトが担ってきたような「自然保護」「文化保全」「貧困削減」「教育支援」「紛争解決」「女性の地位向上」などを実現するための「手段」となることも期待されるようになった。このタイプの観光は、プロブアー・ツーリズム、エコ・ツーリズム、カルチュラル・ツーリズムなどの名前で知られる観光形態が複合的に組み合わせたり、達成すべき目的を掲げた「プロジェクト」として進められる。本研究では、この新しいタイプの開発のための観光を「プロジェクト型観光」とよぶ。

「プロジェクト型観光」に寄せる期待は、ミレニアム開発目標の達成が芳しくなく、新たな開発手法が模索されるアフリカで特に高まっている。従来、アフリカの観光は、外国資本の企業による野生動物観光が主で、その地域に暮らす人々は鑑賞用に囲われた「自然」から排除されるか、「自然」の一部として鑑賞対象になるに過ぎなかった。ところが、研究代表者・分担者らが進めてきたこれまでの研究からは、今日のアフリカでは、とくに「辺境」と呼ばれる地域の少数民族こそ、観光への参加が目覚ましいことが見いだされた。とはいえ、政情不安や感染症流行などによって観光動向は変化しやすいため、観光は収入源としては不安定で、得られる利益にも限界がある。したがって少数民族は旧来の農耕・牧畜・狩猟採集といった主生業を手放さずに、観光とは常に<接続/離脱/再接続>できるような柔軟なかかわり方をすることが重要な方策になっている。一方「プロジェクト型観光」は世界的に高まる「ビジネス・ポテンシャル」としてのアフリカへの強い関心を背景に、多様なアクターが関与し、急ピッチで事業を展開しはじめている。そのなかで、観光便益を受けるメンバーシップや役割の固定化、モニタリングの強化、時限の明確化など、従来の観光にはなかったいくつかの特徴が表出しはじめている。この特徴は<接続/離脱/再接続>が担保された観光との柔軟なかかわり方を阻害する可能性があり、少数民族をとりまく社会関係全体にかつてない複雑なダイナミズムを生み出すことが予想される。

「プロジェクト型観光」という最新の潮流をいちやくとらえ、その包括的理解をすすめるには、旧来の観光研究や開発研究では十分とはいえない。観光を扱う研究の多くは観光客の経験に焦点を当てており、今日のアフリカ観光が、「観光客(ゲスト)」のためのものから「地域社会(ホスト)」のためのものへと変化し、関与するアクターが極めて多様化している現状は把握しえない。一方で「プロジェクト型観光」は、新自由主義的な価値観に支えられ、ビジネスを通じた問題解決を指向するという開発分野の新潮流に位置付けられるが、この潮流に関する研究は、現在のところ、政策的・実践的指向の強いものに限られ、これにより地域社会がどのように再編されるのかについて、ミクロな視点から検証した研究はほとんど行われていない。地域社会と観光現象、開発現象のあいだの複雑なダイナミズムを理解するには、「プロジェクト型観光」という新たな概念を用い、観光産業の枠組みを超えた地域研究の立場からアプローチすることが望まれる。

2. 研究の目的

本研究は、「プロジェクト型観光」を包括的に理解し、これが地域社会のなかでもっとも周辺化されてきた少数民族が直面している問題の解決にいかにか寄与し、一方で新たな問題や矛盾を生じさせているのかを、アフリカの複数地域の比較検討によって明らかにすることを目的とし、以下の3つの課題を設定した。

課題 「プロジェクト型観光」の多様性の解明：少数民族がかかわる「プロジェクト型観光」の実態と多様性を解明するために、実施主体、プロジェクトの目的と内容、運営形態、関与するアクターとその役割などに着目して整理、分析する。

課題 「プロジェクト型観光」と地域社会再編のダイナミズムの解明：課題 で明らかになった「プロジェクト型観光」が少数民族社会に導入される過程で、観光業に携わらない人々を含めた広い地域社会の文脈のなかで、いかなるかたちで社会関係が再編され、社会的境界の維持・転換・再創造がなされているのかを、(a)世代間関係(b)ジェンダー間関係(c)階層化/階層間関係(d)民族間関係に着目しながら、具体的に明らかにする。

課題 「プロジェクト型観光」をめぐるアクター間ポリティクスの解明：課題 とをふまえて、多様なアクター間のポリティクスを解明する。具体的には(a)少数民族による「プロジェクト型観光」への対応(b)複数の「プロジェクト型観光」間の関係(c)「プロジェクト型観光」と観光以外の方法で地域の問題解決を目指すアクターとの関係に焦点をあてる。

3. 研究の方法

観光を総合的に捉えるためには学際的アプローチが生産的であるとの指摘があるが、本研究では、すでにそれぞれの地域で長期にわたる研究実績があり、少数民族社会の政治・経済・文化・歴史などの文脈を十分に理解し学際的研究を進めている地域研究者を配置した。「プロジェクト型観光」が計画・実施されている5つの国（ボツワナ、ケニア、タンザニア、エチオピア、ガボン）の少数民族（サン、ハッザ、イコマ、マサイ、サンプル、ムルシ、アリ、プヌ、ブングなど）を対象とした。各調査対象に精通した地域研究者が、これまでの調査研究の経験と成果を生かして、少数民族の生活域および「プロジェクト型観光」の現場で滞在型の調査を行うとともに、観光政策や産業動向などの資料も収集、分析した。

また研究代表者が主導し、国内外で定期的に研究会やシンポジウムを開催し、個別地域の詳細な資料の比較検討、国家レベルの政策や産業動向および、地域や国家を超えたグローバルな観光ネットワークに関する資料と統合して分析した。これによってアフリカの「プロジェクト型観光」の共通項や、地域の特性に応じた進展状況などを統合的に理解することが可能となった。これらの機会には、アフリカ以外の地域における観光に詳しい研究者や現場の専門家も招聘したり、日本の「プロジェクト型観光」の現状も視野におさめた資料の分析や議論を深めたりすることによって、アフリカの特異性を理解することに努めた。

4. 研究成果

本研究の研究成果は、研究代表者と分担者による個々の学会報告や論文として発表されただけでなく、全体としてまとめて、観光学術学会におけるテーマセッション「アフリカ地域研究からみる少数民族観光：「プロジェクト型観光」に着目して」の開催、北海道阿寒湖畔の観光地域におけるワークショップ「世界の先住民と観光」、タンザニアの Tanzania Wildlife Research Institute と共同企画した国際シンポジウム「Tourism, Development and Conservation in Africa」の開催というかたちで公開された。

これらにおいて、本研究では「プロジェクト型観光」の実態を解明するとともに、「プロジェクト型観光」が、少数民族や彼らの暮らす地域社会に与える影響について、プロジェクト自体の評価や観光業としての達成度という枠組みをこえて、それぞれの対象地域の歴史や文化を十分に把握したうえで、旧来の社会秩序や価値観が組み替えられていく過程を明らかにすることに力が入れられた。

その結果、「プロジェクト型観光」には、国際機関、ドナー、投資家、観光関連企業、インフラ関連企業、環境 NGO や開発 NGO、研究教育機関企業、地元有力者、地域住民などのきわめて多彩なアクターが関わっていること、そのなかには、「プロジェクト型観光」が始まる以前には、辺境の少数民族が直接関わるような強大な力をもつ多国籍企業や国際投資家などのアクターも含まれていることが明らかになった。また、それまで観光対象とならなかったようなものも「財」や「資源」とみなされ、観光対象となっていることも判明した。たとえば、タンザニアの国立公園周辺では、野生動物保護を目的に掲げた「プロジェクト型観光」が進み、南アフリカ資本のホテル企業・ドイツに拠点を置く環境 NGO・タンザニア政府が一体となって、村の土地の一部を野生動物観光地域に変更するように働きかけている。これに対して、観光資源化される土地をそれまで乾季の水場としていた牧畜民は反対する一方で、農耕民は野生動物観光地域に制定されることでゾウ獣害対策の柵が設置されるため賛成するなど、少数民族社会の「プロジェクト型観光」への対応の複雑さが浮き彫りにされた。

また「プロジェクト型観光」によって、少数民族社会をめぐって社会的境界の維持・転換・再創造がダイナミックに展開していることも明らかになった。「プロジェクト型観光」には、弱者である「虐げられた女性」や「周辺化された少数民族」などが、より支援対象として選ばれやすい特性がある。こうしたことを背景に、ケニアでは、観光の現場が「伝統的」な男性優位のジェンダー規範が適用されず、女性の主体性が発揮される場となったり、ボツワナでも、地域社会ではもっと周辺化された民族が、観光の場では経済的に優位な立場に立つなど、既存のジェンダー役割や民族間関係の逆転現象が見られることが指摘された。またエチオピアでは、一般には年長者が力を持っており、観光資源とされる地域社会の歴史や文化に詳しい高齢者の存在は欠かせないものの、経済的利益の分配の主導権をガイドである若者層が握るようになるなど、世代間関係の逆転現象も報告された。

一方で、「プロジェクト型観光」に関わる他の多くのアクターとの関係においては、少数民族社会は「ホスト社会」として重要な役割を謳われるものの、政治的にも経済的にも圧倒的に弱者である状況に変化はないばかりか、ときにその格差は強化されていたり、さらなる問題が生じていることも明らかになった。ボツワナでは、少数民族の文化継承を謳う「プロジェクト型観光」の実質的な意思決定者は、その地域で経済力を持つ植民者社会であり、そこに国際 NGO や投資家、多国籍企業などが関わることによって、不平等な構造はむしろ強化された。またタンザニアからは、地域の経済状況の向上を目指す「プロジェクト型観光」が、実質的には地域外に由来する個人や彼らと親しい一部の人々によって運営され、本来主体となるべき少数民族の内部に、プロジェクトへの関与の差が経済的・社会的な階層をつくることにもつながることが報告され、同様にガボンでも「プロジェクト型観光」が住民のあいだの社会的対立を生み、協力体制の構築やオーナーシップの醸成がともなわなければ、プロジェクト型観光は期待される効果をあげられないどころか、地域の社会関係を毀損することもあることが明らかにな

った。

以上のように、本研究計画は「プロジェクト型観光」にフォーカスをあてることによって、少数民族社会や彼らの暮らす地域における社会関係の再編の過程と、その外側に広がる多様なアクターとあいだの関係性の双方の絡み合いを解明することに貢献した。一方で、研究計画期間が新型コロナウイルス感染症のパンデミックと重なったことは、現地調査の進捗に多大な困難をもたらした。ただし、このことは、「プロジェクト型観光」の脆弱性を明るみにするとともに、少数民族社会の観光とのかかわり方の特徴をあぶりだす結果ともなった。今後、パンデミックを経たアフリカの地域社会において「プロジェクト型観光」がどのような展開を見せるのか、新たな局面を迎えたアフリカ観光についてさらに研究を続けていく必要性も確認された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計27件（うち査読付論文 21件 / うち国際共著 3件 / うちオープンアクセス 20件）

1. 著者名 松浦直毅・戸田美佳子・安岡宏和	4. 巻 100
2. 論文標題 アフリカの生物多様性保全をめぐる歴史と現代的課題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アフリカ研究	6. 最初と最後の頁 29-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Saeko Terada, Christian Mikolo Yobo, Guy-Max Moussavou, Naoki Matsuura	4. 巻 14(1)
2. 論文標題 Human-Elephant Conflict Around Moukalaba-Doudou National Park in Gabon: Socioeconomic Changes and Effects of Conservation Projects on Local Tolerance	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Tropical Conservation Science	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1177/19400829211026775	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 八塚春名	4. 巻 30
2. 論文標題 タンザニアの狩猟採集民ハッザによる食料獲得戦略の多様化 民族観光と他民族の影響に着目して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 農耕の技術と文化	6. 最初と最後の頁 113-132
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 中村香子	4. 巻 29
2. 論文標題 女子割礼・女性器切除のローカル社会における意味づけと廃絶運動に対する反応：ケニア・牧畜社会の事例から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 女性学研究	6. 最初と最後の頁 113-127
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24729/00017702	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 松浦直毅・戸田美佳子・安岡宏和	4. 巻 100
2. 論文標題 アフリカの生物多様性保全をめぐる歴史と現代的課題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アフリカ研究	6. 最初と最後の頁 29-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Saeko Terada, Christian Mikolo Yobo, Guy-Max Moussavou, Naoki Matsuura	4. 巻 14(1)
2. 論文標題 Human-Elephant Conflict Around Moukalaba-Doudou National Park in Gabon: Socioeconomic Changes and Effects of Conservation Projects on Local Tolerance	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Tropical Conservation Science	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/19400829211026775	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 八塚春名	4. 巻 30
2. 論文標題 タンザニアの狩猟採集民ハッザによる食料獲得戦略の多様化 民族観光と他民族の影響に着目して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 農耕の技術と文化	6. 最初と最後の頁 113-132
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中村香子	4. 巻 29
2. 論文標題 女子割礼・女性器切除のローカル社会における意味づけと廃絶運動に対する反応：ケニア・牧畜社会の事例から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 女性学研究	6. 最初と最後の頁 113 - 127
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24729/00017702	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Saeko Terada, Christian Mikolo Yobo, Guy-Max Moussavou, Naoki Matsuura	4. 巻 14
2. 論文標題 Human-Elephant Conflict Around Moukalaba-Doudou National Park in Gabon: Socioeconomic Changes and Effects of Conservation Projects on Local Tolerance	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Tropical Conservation Science	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/19400829211026775	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 八塚春名	4. 巻 30
2. 論文標題 タンザニアの狩猟採集民ハッザによる食料獲得戦略の多様化 民族観光と他民族の影響に着目して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 農耕の技術と文化	6. 最初と最後の頁 113-132
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤岡悠一郎・八塚春名	4. 巻 36
2. 論文標題 文化景観としてのトチノキ巨木林	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 BIOSTORY	6. 最初と最後の頁 84-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松浦直毅・戸田美佳子・安岡宏和	4. 巻 100
2. 論文標題 アフリカの生物多様性保全をめぐる歴史と現代的課題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アフリカ研究	6. 最初と最後の頁 29-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岩上明日香・目黒紀夫	4. 巻 27
2. 論文標題 ドミニカ共和国の野球練習場における人びとの関わり合い：首都イポドロモの事例	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 広島国際研究	6. 最初と最後の頁 27-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 丸山淳子	4. 巻 92
2. 論文標題 ボツワナ中西部における「ブッシュマン観光」の成立と展開：観光と地域の社会関係のダイナミズム	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アフリカ研究	6. 最初と最後の頁 55-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 丸山淳子・目黒紀夫	4. 巻 92
2. 論文標題 アフリカにおける「住民参加型観光」の再検討 地域社会の視点から	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アフリカ研究	6. 最初と最後の頁 19-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Junko Maruyama	4. 巻 Suppl. 54
2. 論文標題 From “Displaced Peoples” to “Indigenous Peoples”: Experiences of the !Xun and Khwe San in South Africa.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 African Study Monographs	6. 最初と最後の頁 137-154
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 西崎伸子	4. 巻 92
2. 論文標題 エチオピア西南部における民族文化観光の展開 新規参入のアクターに着目して	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アフリカ研究	6. 最初と最後の頁 43-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 西崎伸子	4. 巻 -
2. 論文標題 アフリカが示す「国立公園観光化」の教訓 地域社会と円滑にかかわるために	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 電子マガジン「SYNODOS」	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 MEGURO, Toshio	4. 巻 22
2. 論文標題 Gaps between the Innovativeness of the Maasai Olympics and the Positionings of Maasai Warriors	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Nilo-Ethiopian Studies	6. 最初と最後の頁 27-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 丸山淳子・目黒紀夫	4. 巻 92
2. 論文標題 アフリカにおける「住民参加型観光」の再検討 地域社会の視点から	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アフリカ研究	6. 最初と最後の頁 19-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 目黒紀夫	4. 巻 92
2. 論文標題 「万能薬」ではなく「サプリ」として ケニア南部に暮らすマサイにとっての観光の意味	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アフリカ研究	6. 最初と最後の頁 83-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩井雪乃	4. 巻 92
2. 論文標題 奪われる住民の観光便益 タンザニア・ワイルドライフ・マネジメントエリアの裏切り	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 アフリカ研究	6. 最初と最後の頁 95-108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岩井雪乃	4. 巻 23
2. 論文標題 政治化された「野生」 - 地域社会はグローバル化した野生動物といかにかわれるか -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 環境社会学研究	6. 最初と最後の頁 34-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中村香子	4. 巻 92
2. 論文標題 「伝統」を見せ物に「苦境」で稼ぐ 「マサイ」民族文化観光の新たな展開	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アフリカ研究	6. 最初と最後の頁 69-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 八塚春名	4. 巻 92
2. 論文標題 タンザニアにおける狩猟採集民ハッザの観光実践 民族間関係、個人の移動、収入の個人差に着目して	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アフリカ研究	6. 最初と最後の頁 27-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 八塚春名	4. 巻 -
2. 論文標題 タンザニア、土地不足とダム建設をめぐる人びとの葛藤	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 電子マガジン「SYNODOS」	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松浦直毅・安藤智恵子・新谷雅徳・竹ノ下祐二	4. 巻 92
2. 論文標題 科学研究プロジェクトと地域社会を架橋するエコツーリズム ガボン、ムカラバ・ドウドゥ国立公園における取り組み	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アフリカ研究	6. 最初と最後の頁 109-121
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計97件(うち招待講演 38件/うち国際学会 11件)

1. 発表者名 八塚春名
2. 発表標題 タンザニアにおける野生・半栽培植物の採集、販売、消費に関する予備的考察
3. 学会等名 日本アフリカ学会第58回学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 丸山淳子
2. 発表標題 変わりゆく狩猟採集社会: ブッシュマンから学ぶこと
3. 学会等名 公益財団法人日本モンキーセンター「京大モンキーキャンパス」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Junko Maruyama
2. 発表標題 Nature conservation, Land rights and Livelihood among the San in Central Kalahari
3. 学会等名 The Conference on Hunting and Gathering Societies (CHAGS) 13 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 丸山淳子
2. 発表標題 アイヌ観光とハイブリディティ: 阿寒湖地域における先住民族観光の試み
3. 学会等名 観光学術学会第11回大会 テーマセッション「日本における先住民族観光の可能性 阿寒湖アイヌの挑戦」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 丸山淳子
2. 発表標題 「ブッシュマン観光」から考える観光と文化
3. 学会等名 文化遺産国際協力コンソーシアム第19回アフリカ分科会(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 目黒紀夫
2. 発表標題 野生生物保全における在来・地域知：マサイ社会の伝統と潜在力から考える
3. 学会等名 現代文化人類学会第24回シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 松浦直毅
2. 発表標題 地域文化に根ざしたアフリカ熱帯林の生物多様性保全：ガボンにおける研究と実践
3. 学会等名 文化遺産国際協力コンソーシアム第18回アフリカ分科会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Naoki Matsuura
2. 発表標題 Une etude integree sur les conflits hommes-elephants autour du Parc National de Moukalaba-Doudou au sud du Gabon
3. 学会等名 Conference sur la coexistence homme elephant de foret (2eme edition) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 野本繭子・寺田佐恵子・松浦直毅
2. 発表標題 ガボン共和国ムカラバ・ドゥドゥ国立公園周辺におけるマルミミゾウの作物被害による住民の暮らしの変化
3. 学会等名 日本アフリカ学会第59回学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 西崎伸子
2. 発表標題 野生植物の「在来」知識の継承と観光 阿寒湖アイヌ文化ツアーを事例に
3. 学会等名 観光学会第11回大会 テーマセッション「日本における先住民族観光の可能性 阿寒湖アイヌの挑戦」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 西崎伸子
2. 発表標題 森林由来の食文化の伝承とシカ害対策：多様な担い手に着目して
3. 学会等名 第27回「野生生物と社会」学会大会（北海道江別大会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中村香子
2. 発表標題 ガラスビーズとアフリカの人びと ケニアの牧畜民サンプルの事例から
3. 学会等名 国立アイヌ民族博物館イベント みんなくビーズ研究最前線（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中村香子
2. 発表標題 阿寒湖アイヌコタンの作り手とモノーハイブリディティから生み出されるオーセンティシティ
3. 学会等名 観光学会第11回大会 テーマセッション「日本における先住民族観光の可能性 阿寒湖アイヌの挑戦」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中村香子
2. 発表標題 さまざまな思いをこめてつくる ケニア牧畜民サンプルのビーズの装身具
3. 学会等名 国立民族学博物館主催シンポジウム「ビーズからのメッセージ つなぐ・かざる・みせる」(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岩井雪乃
2. 発表標題 害をもたらす野生動物との共生に取り組むボランティアーアフリカのゾウから日本のイノシシまで
3. 学会等名 東京ワセダロータリークラブ 第1185回例会(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岩井雪乃
2. 発表標題 タンザニア回廊地帯における野生動物と人のコンフリクト・密猟問題
3. 学会等名 環境省「令和3年度タンザニアにおける気候変動適応事業」第2回勉強会(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岩井雪乃
2. 発表標題 タンザニアのゾウ被害と観光利用ー住民は観光便益を保全ではなく開発に投資する
3. 学会等名 「野生動物と社会」学会第26回大会 テーマセッション「野生動物の観光利用をめぐる『軋轢』- 保全・観光・獣害」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岩井雪乃
2. 発表標題 アフリカゾウ獣害問題の『見えない被害』
3. 学会等名 日本アフリカ学会第59回学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岩井雪乃
2. 発表標題 オンラインリアルタイム授業型の事例
3. 学会等名 第27回大学教育研究フォーラム 企画セッション「『体験の言語化』実践におけるオンラインの課題と可能性」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岩井雪乃
2. 発表標題 狩猟体験ツーリズムとアイヌ文化の接合可能性
3. 学会等名 観光学術学会第11回大会 テーマセッション「日本における先住民族観光の可能性 阿寒湖アイヌの挑戦」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 八塚春名
2. 発表標題 タンザニアにおける野生・半栽培植物の採集、販売、消費に関する予備的考察
3. 学会等名 日本アフリカ学会第58回学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 寺田佐恵子・松浦直毅
2. 発表標題 ガボン共和国ムカラバ・ドゥドゥ国立公園周辺地域における地域住民の野生動物保全に対する認識：アフリカゾウによる被害と国立公園からの利益の影響
3. 学会等名 日本アフリカ学会第57回学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 丸山淳子
2. 発表標題 役に立つ観光・役に立つ研究：アフリカの住民参加型観光から学ぶこと
3. 学会等名 日本アフリカ学会第57回学術大会 公開シンポジウム 「アフリカ研究と社会との繋がりを考える：開発をめぐる対話」（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 丸山淳子
2. 発表標題 ひとりひとりと向き合う：コロナ禍の学部におけるフィールドワーク教育の困難と可能性
3. 学会等名 日本学術会議公開オンラインシンポジウム「コロナ時代におけるフィールドワーク教育をめぐって」（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 丸山淳子
2. 発表標題 辺境からグローバルな権利運動へ：ボツワナと南アフリカにおけるサンの先住民運動
3. 学会等名 岩波叢書「グローバル関係学」シリーズ刊行開始記念Book Launch Series 3「第七巻『ローカルと世界を結ぶ』を語る」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 丸山淳子
2. 発表標題 変わりゆく狩猟採集社会: ブッシュマンから学ぶこと
3. 学会等名 公益財団法人日本モンキーセンター「京大モンキーキャンパス」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Junko Maruyama
2. 発表標題 Nature conservation, Land rights and Livelihood among the San in Central Kalahari
3. 学会等名 The Conference on Hunting and Gathering Societies (CHAGS) 13 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 丸山淳子
2. 発表標題 アイヌ観光とハイブリディティ: 阿寒湖地域における先住民族観光の試み
3. 学会等名 観光学術学会第11回大会 テーマセッション「日本における先住民族観光の可能性 阿寒湖アイヌの挑戦」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 丸山淳子
2. 発表標題 「ブッシュマン観光」から考える観光と文化
3. 学会等名 文化遺産国際協力コンソーシアム第19回アフリカ分科会(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 目黒紀夫
2. 発表標題 スポーツを通じた保全は本物か？ マサイ・オリンピックをめぐる環境と文化のポリティクス
3. 学会等名 日本スポーツ人類学会第22回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 目黒紀夫
2. 発表標題 野生生物保全における在来・地域知：マサイ社会の伝統と潜在力から考える
3. 学会等名 現代文化人類学会第24回シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 松浦直毅
2. 発表標題 地域文化に根ざしたアフリカ熱帯林の生物多様性保全：ガボンにおける研究と実践
3. 学会等名 文化遺産国際協力コンソーシアム第18回アフリカ分科会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Naoki Matsuura
2. 発表標題 Une etude integree sur les conflits hommes-elephants autour du Parc National de Moukalaba-Doudou au sud du Gabon
3. 学会等名 Conference sur la coexistence homme elephant de foret (2eme edition) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 野本繭子・寺田佐恵子・松浦直毅
2. 発表標題 ガボン共和国ムカラバ・ドゥドゥ国立公園周辺におけるマルミミゾウの作物被害による住民の暮らしの変化
3. 学会等名 日本アフリカ学会第59回学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 西崎伸子
2. 発表標題 野生植物の「在来」知識の継承と観光 阿寒湖アイヌ文化ツアーを事例に
3. 学会等名 観光学術学会第11回大会 テーマセッション「日本における先住民族観光の可能性 阿寒湖アイヌの挑戦」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 西崎伸子
2. 発表標題 森林由来の食文化の伝承とシカ害対策：多様な担い手に着目して
3. 学会等名 第27回「野生生物と社会」学会大会（北海道江別大会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中村香子
2. 発表標題 女性器切除（FGM/C）をめぐる新たなアイデンティティーの形成過程 ケニアの牧畜社会を事例に
3. 学会等名 立教大学史学会大会シンポジウム「アフリカの若者の身体」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中村香子
2. 発表標題 ガラスビーズとアフリカの人びと ケニアの牧畜民サンプルの事例から
3. 学会等名 国立アイヌ民族博物館イベント みんなくビーズ研究最前線（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中村香子
2. 発表標題 阿寒湖アイヌコタンの作り手とモノーハイブリディティから生み出されるオーセンティシティ
3. 学会等名 観光学会第11回大会 テーマセッション「日本における先住民族観光の可能性 阿寒湖アイヌの挑戦」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中村香子
2. 発表標題 さまざまな思いをこめてつくる ケニア牧畜民サンプルのビーズの装身具
3. 学会等名 国立民族学博物館主催シンポジウム「ビーズからのメッセージ つなぐ・かざる・みせる」（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岩井雪乃
2. 発表標題 アフリカゾウ獣害問題から考える象牙取引
3. 学会等名 東京都主催「象牙取引規制に関する有識者会議」（第2回）（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岩井雪乃
2. 発表標題 害をもたらす野生動物との共生に取り組むボランティア –アフリカのゾウから日本のイノシシまで–
3. 学会等名 東京ワセダロータリークラブ 第1185回例会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岩井雪乃
2. 発表標題 タンザニア回廊地帯における野生動物と人のコンフリクト・密猟問題
3. 学会等名 環境省「令和3年度タンザニアにおける気候変動適応事業」第2回勉強会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岩井雪乃
2. 発表標題 タンザニアのゾウ被害と観光利用－住民は観光便益を保全ではなく開発に投資する
3. 学会等名 「野生動物と社会」学会第26回大会 テーマセッション「野生動物の観光利用をめぐる『軋轢』 - 保全・観光・獣害」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岩井雪乃
2. 発表標題 アフリカゾウ獣害問題の『見えない被害』
3. 学会等名 日本アフリカ学会第59回学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岩井雪乃
2. 発表標題 オンラインリアルタイム授業型の事例
3. 学会等名 第27回大学教育研究フォーラム 企画セッション「『体験の言語化』実践におけるオンラインの課題と可能性」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岩井雪乃
2. 発表標題 狩猟体験ツーリズムとアイヌ文化の接合可能性
3. 学会等名 観光学術学会第11回大会 テーマセッション「日本における先住民族観光の可能性 阿寒湖アイヌの挑戦」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山口亮太・松浦直毅
2. 発表標題 蒸留酒と鱗翅目幼虫の経済的ポテンシャル コンゴ民主共和国熱帯林における地域特産品の商品化と流通をめぐって
3. 学会等名 日本アフリカ学会第56回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松浦直毅・山口亮太
2. 発表標題 研究 - 開発 - 保全の統合的発展は可能か？コンゴ民主共和国における水上輸送プロジェクトの実践
3. 学会等名 日本文化人類学会第53回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 寺田佐恵子・松浦直毅
2. 発表標題 ガボン共和国ムカラバ・ドゥドゥ国立公園周辺地域における地域住民の野生動物保全に対する認識：アフリカゾウによる被害と国立公園からの利益の影響
3. 学会等名 日本アフリカ学会第57回学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中村香子
2. 発表標題 「コミュニティ・コンサーバンシー」の設置がもたらすコミュニティの分断 - ケニア牧畜社会の事例から
3. 学会等名 日本アフリカ学会第56回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中村香子
2. 発表標題 女子割礼（FC）・女性性器切除（FGM/C）と向き合う：＜「文化」か？「暴力」か？＞を越えて
3. 学会等名 津田塾大学学芸学部多文化・国際協力学科「フィールドから学ぶ」シリーズ（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中村香子
2. 発表標題 女性器切除（FGM/C）をめぐる新たなアイデンティティの形成過程 ケニアの牧畜社会を事例に
3. 学会等名 立教大学史学会大会シンポジウム「アフリカの若者の身体」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中村香子
2. 発表標題 ガラスビーズとアフリカの人びと ケニアの牧畜民サンプルの事例から
3. 学会等名 国立アイヌ民族博物館イベント みんなくビーズ研究最前線（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中村香子
2. 発表標題 女子割礼・女性器切除のローカル社会における意味づけと廃絶運動に対する反応：ケニア・牧畜社会の事例から
3. 学会等名 大阪府立大学女性学研究センター主催2021年度男女共同参画事業「変わりゆくアフリカの身体加工と廃絶運動の現在：女性器切除という慣習」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中村香子
2. 発表標題 グローバル・ディスコースとアフリカの女性器切除：ケニアの牧畜社会を事例に
3. 学会等名 津田塾大学学芸学部多文化・国際協力量科「フィールドから学ぶ」シリーズ（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 八塚春名
2. 発表標題 タンザニアにおける野生・半栽培植物の採集、販売、消費に関する予備的考察
3. 学会等名 日本アフリカ学会第58回学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岩井雪乃
2. 発表標題 アフリカゾウ獣害問題から考える象牙取引
3. 学会等名 東京都主催「象牙取引規制に関する有識者会議」(第2回)(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岩井雪乃
2. 発表標題 害をもたらす野生動物との共生に取り組むボランティアーアフリカのゾウから日本のイノシシまでー
3. 学会等名 東京ワセダロータリークラブ 第1185回例会(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岩井雪乃
2. 発表標題 タンザニア回廊地帯における野生動物と人のコンフリクト・密猟問題
3. 学会等名 環境省「令和3年度タンザニアにおける気候変動適応事業」第2回勉強会(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岩井雪乃
2. 発表標題 タンザニアのゾウ被害と観光利用ー住民は観光便益を保全ではなく開発に投資する
3. 学会等名 「野生生物と社会」学会第26回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西崎伸子
2. 発表標題 エチオピア西南部における「観光みやげ」ー地域住民による創造とジレンマ
3. 学会等名 日本アフリカ学会第56回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西崎伸子
2. 発表標題 Ethnic Tourism as Alternative Development in the Lower Omo Valley, Ethiopia
3. 学会等名 JSPS-ICHR india-Japan Bilateral Symposium(Tamil University (India))(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 丸山淳子
2. 発表標題 「自然保護」が生みだす土地格差:ボツワナ西部におけるサンと野生動物保護・家畜管理をめぐる諸問題
3. 学会等名 日本アフリカ学会第56回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Junko Maruyama
2. 発表標題 Mobility and Indigeneity: Land issues among the San hunter-gatherers of southern Africa
3. 学会等名 International Conference on Resources and Human Mobility
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 丸山淳子
2. 発表標題 役に立つ観光・役に立つ研究：アフリカの住民参加型観光から学ぶこと
3. 学会等名 日本アフリカ学会第57回学術大会 公開シンポジウム 「アフリカ研究と社会との繋がりを考える：開発をめぐる対話」（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 丸山淳子
2. 発表標題 ひとりひとりと向き合う：コロナ禍の学部におけるフィールドワーク教育の困難と可能性
3. 学会等名 日本学術会議公開オンラインシンポジウム「コロナ時代におけるフィールドワーク教育をめぐって」（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 丸山淳子
2. 発表標題 辺境からグローバルな権利運動へ：ボツワナと南アフリカにおけるサンの先住民運動
3. 学会等名 岩波叢書「グローバル関係学」シリーズ刊行開始記念Book Launch Series 3「第七巻『ローカルと世界を結ぶ』を語る」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 丸山淳子
2. 発表標題 変わりゆく狩猟採集社会：ブッシュマンから学ぶこと
3. 学会等名 公益財団法人日本モンキーセンター「京大モンキーキャンパス」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 目黒紀夫
2. 発表標題 第4回マサイ・オリンピック：変わったものと変わらないもの
3. 学会等名 日本アフリカ学会第56回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 目黒紀夫
2. 発表標題 マサイ・オリンピックに関する環境社会学のフィールド調査
3. 学会等名 日本スポーツ人類学会2019年度第2回スポじんサロン
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Toshio MEGURO
2. 発表標題 Sport for Development and Conservation? (Un)changing Modernity and Authenticity of Maasai Olympics
3. 学会等名 Kenya-Japan Collaboration Workshop on Sport Research (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 目黒紀夫
2. 発表標題 イベント化する野生動物保全における「スペクタクル」の表象 ケニア南部、マサイ・オリンピックの事例研究
3. 学会等名 第60回 環境社会学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 目黒紀夫
2. 発表標題 スポーツを通じた保全は本物か？ マサイ・オリンピックをめぐる環境と文化のポリティクス
3. 学会等名 スポーツ人類学会第22回大会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Nishizaki, Nobuko
2. 発表標題 Nature Conservation and “Land Grab” in Southern Ethiopia: A Focus on the Management of Natural Resources
3. 学会等名 International Workshop: Transformations and Visions: responses, alternatives and resistances to large-scale land deals in the Global South, MPI for Social Anthropology & McGill University（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Matsuura, Naoki, Yamaguchi, R, and Takamura, S.
2. 発表標題 Local associations, economic development and river trade in Tsuapa province in DRC
3. 学会等名 Congo Research Network Conference 2018. University of Oxford.（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松浦直毅 山口亮太 高村伸吾
2. 発表標題 保全と開発の統合に向けた住民組織のエンパワーメント コンゴ民主共和国における水上輸送支援プロジェクトの実践
3. 学会等名 日本アフリカ学会第55回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山口亮太 松浦直毅
2. 発表標題 熱帯森林資源の商品化と流通 コンゴ民主共和国における水上輸送支援プロジェクトの実践
3. 学会等名 日本アフリカ学会第55回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 八塚 春名
2. 発表標題 タンザニアにおける狩猟採集活動と観光とのかかわりに関する地域的差異
3. 学会等名 日本アフリカ学会第55回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中村 香子
2. 発表標題 ケニアにおける恋愛ツーリズムに関する一考察－「マサイの戦士」の経験から
3. 学会等名 観光学術学会第7回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中村 香子
2. 発表標題 <女子割礼・女性性器切除>に付与される新たな意味
3. 学会等名 日本アフリカ学会第55回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 丸山淳子
2. 発表標題 ボツワナにおける「ブッシュマン観光」の成立とその展開
3. 学会等名 日本アフリカ学会第54回学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 丸山淳子
2. 発表標題 先住民の法廷闘争と遊動生活：ボツワナのサンを事例に
3. 学会等名 シンポジウム「先住民と法 文化人類学、憲法学、国際法学の立場から」（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Maruyama, Junko
2. 発表標題 Divided Land, Shared Land: Recent Land Issues among the San Hunter-Gatherers in Central Kalahari
3. 学会等名 African Forum: African Potentials to Develop Alternative Methods of Addressing Global Issues, (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Maruyama, Junko
2. 発表標題 Nature conservation, land access and economic disparities among the San hunter-gathers in Southern Africa, Kyoto University
3. 学会等名 France-Japan Area Studies Forum: Voices for the Future: African Area Studies in a Globalizing World (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 丸山淳子
2. 発表標題 カラハリ砂漠の子育てに学ぶ
3. 学会等名 よこはま国際フォーラム (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西崎伸子
2. 発表標題 国立公園『民営化』の試みと課題：エチオピアの事例
3. 学会等名 野生生物と社会学会第23回研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 MEGURO, Toshio
2. 発表標題 Gaps between the Innovativeness of the Maasai Olympics and the Positionings of Maasai Warriors
3. 学会等名 ECAS7 (the 7th European Conference on African Studies) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 目黒紀夫
2. 発表標題 民間組織による「コミュニティ保護区」設立の意図 ケニアの事例
3. 学会等名 「野生生物と社会」学会第23回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Iwai Yukino
2. 発表標題 Continuous Land Loss: Wildlife Management Area in Tanzania as Green Grab
3. 学会等名 "France-Japan Area Studies Forum: Voices for The Future: African Area Studies in a Globalizing World" (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 岩井雪乃
2. 発表標題 アフリカゾウ追い払いにおける官民連携と駆け引き: タンザニアの事例
3. 学会等名 第23回「野生生物と社会」学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中村香子
2. 発表標題 「マサイ」をめぐる表象の重層性 ケニアの牧畜民サンプルの「民族衣装」の新展開
3. 学会等名 日本文化人類学会第51回研究大会、分科会: <少数者表象のポリティクス 展示、衣装、観光、芸術の文脈に現れる「もの」から>
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 八塚春名
2. 発表標題 『雑草』を増やす タンザニア、サンダウェによる耕地のニセゴマ管理
3. 学会等名 日本アフリカ学会第54回学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 八塚春名
2. 発表標題 おみやげをつくる資源の越境 滋賀県高島市におけるトチ餅づくりを事例として
3. 学会等名 観光学会第5回研究集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松浦直毅・山口亮太・高村伸吾
2. 発表標題 森と河をつなぐ - コンゴ民主共和国における水上輸送プロジェクトを通じた研究と支援
3. 学会等名 生態人類学会第23回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松浦直毅
2. 発表標題 長期研究プロジェクトにおける / に関する / を通じた研究と実践 アフリカの類人猿調査地における人類学的フィールドワーク
3. 学会等名 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・フィールドサイエンスコロキウム第2回ワークショップ（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松浦直毅・木村大治・岡本妃花理・村山美穂
2. 発表標題 新規家畜の導入が住民生活にもたらす効果 - ガーナにおけるグラスカッター飼育プロジェクトより
3. 学会等名 日本アフリカ学会第54回学術大会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計48件

1. 著者名 松村圭一郎、コクヨ野外学習センター(編) 丸山淳子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 黒鳥社	5. 総ページ数 301
3. 書名 働くことの人類学【活字版】 仕事と自由をめぐる8つの対話	

1. 著者名 Toshio Meguro, Chihiro Ito, Kariuki Kirigia (eds.)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Langaa Rpcig	5. 総ページ数 374
3. 書名 African Potentials for Wildlife Conservation and Natural Resource Management: Against the Image of 'deficiency' and Tyranny	

1. 著者名 清水展, 小國和子(編) 西崎伸子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 268
3. 書名 職場・学校で活かす現場グラフィー : ダイバーシティ時代の可能性をひらくために	

1. 著者名 小坂田裕子、深山直子、丸山淳子、守谷賢輔編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 信山社	5. 総ページ数 246
3. 書名 考えてみよう 先住民と法	

1. 著者名 Toshio Meguro, Chihiro Ito, Kariuki Kirigia (eds.) Nishizaki Nobuko	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Langaa Rpcig	5. 総ページ数 374
3. 書名 African Potentials for Wildlife Conservation and Natural Resource Management: Against the Image of 'deficiency' and Tyranny	

1. 著者名 Kyoko Nakamura, Kaori Miyachi, Yukio Miyawaki, Makiko Toda (eds.)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 193
3. 書名 Female Genital Mutilation/Cutting: Global Zero Tolerance Policy and Diverse Responses from African and Asian Local Communities	

1. 著者名 落合雄彦（編） 中村香子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 236
3. 書名 アフリカ潜在力のカレイドスコープ	

1. 著者名 須藤廣・遠藤英樹・高岡文章・松本健太郎（編）中村香子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 244
3. 書名 よくわかる観光コミュニケーション論	

1. 著者名 宮脇幸生、戸田真紀子、中村香子、宮地歌織（編）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 171
3. 書名 グローバル・ディスコースと女性の身体ーアフリカの女性器切除とローカル社会の多様性	

1. 著者名 環境社会学会（編） 岩井雪乃	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 742
3. 書名 環境社会学事典	

1. 著者名 阿部 健一・柳澤 雅之編 松浦直毅	4. 発行年 2021年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 296
3. 書名 ノーライフ・ノーフォレスト：熱帯林の「価値命題」を暮らしから問う	

1. 著者名 Hyden, G., Sugimura, K. and T. Tsuruta ed. Haruna Yatsuka	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 190
3. 書名 Rethinking African Agriculture: How non-Agrarian Factors Shape Peasant Livelihoods	

1. 著者名 五十嵐誠一・酒井啓子（編）丸山淳子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 242
3. 書名 グローバル関係学7 ローカルと世界を結ぶ	

1. 著者名 Toshio Meguro, Chihiro Ito, Kariuki Kirigia (eds.)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Langaa Rpcig	5. 総ページ数 374
3. 書名 African Potentials for Wildlife Conservation and Natural Resource Management: Against the Image of 'deficiency' and Tyranny	

1. 著者名 清水展, 小國和子（編） 西崎伸子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 268
3. 書名 職場・学校で活かす現場グラフィー : ダイバーシティ時代の可能性をひらくために	

1. 著者名 大塚柳太郎（編）中村香子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 336
3. 書名 生態人類学は挑む Session1 動く・集まる	

1. 著者名 Takehiko Ochiai, Misa Hirano-Nomoto (eds.) Kyoko Nakamura	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Langaa Rpcig	5. 総ページ数 296
3. 書名 People, Predicaments and Potentials in Africa	

1. 著者名 Kyoko Nakamura, Kaori Miyachi, Yukio Miyawaki, Makiko Toda (eds.)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 193
3. 書名 Female Genital Mutilation/Cutting: Global Zero Tolerance Policy and Diverse Responses from African and Asian Local Communities	

1. 著者名 落合雄彦（編） 中村香子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 236
3. 書名 アフリカ潜在力のカレイドスコープ	

1. 著者名 池谷和信（編）中村香子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 平凡社	5. 総ページ数 286
3. 書名 アイヌのビーズ：美と祈りの二万年	

1. 著者名 Meguro, T., Ito, C. & Kirigia, K. eds. Iwai Yukino	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Langaa Rpcig	5. 総ページ数 373
3. 書名 'African Potentials' for Wildlife Conservation and Natural Resource Management: Against the Image of 'Deficiency' and Tyranny of 'Fortress'	

1. 著者名 環境社会学会（編） 岩井雪乃	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 742
3. 書名 環境社会学事典	

1. 著者名 須藤廣・遠藤英樹・高岡文章・松本健太郎（編）中村香子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 244
3. 書名 よくわかる観光コミュニケーション論	

1. 著者名 宮脇幸生、戸田真紀子、中村香子、宮地歌織（編）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 171
3. 書名 グローバル・ディスコースと女性の身体ーアフリカの女性器切除とローカル社会の多様性	

1. 著者名 松浦直毅・山口亮太・高村伸吾・木村大治（編）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 280
3. 書名 コンゴ・森と河をつなぐ：人類学者と地域住民がめざす開発と保全の両立	

1. 著者名 阿部健一・柳澤雅之(編) 松浦直毅	4. 発行年 2021年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 290
3. 書名 ノーライフ・ノーフォレスト：熱帯林の「価値命題」を暮らしから問う	

1. 著者名 池谷和信（編）中村香子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 297
3. 書名 ビーズでたどるホモ・サピエンス史：美の起源に迫る	

1. 著者名 大塚 柳太郎（編）中村香子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 336
3. 書名 生態人類学は挑む SESSION 1 動く・集まる	

1. 著者名 Ochiai, Takehiko, Misa Hirano-Nomoto, Daniel E. Agbibo (eds.) Kyoko Nakamura	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Langaa Rpcig	5. 総ページ数 296
3. 書名 People, Predicaments and Potentials in Africa	

1. 著者名 宮脇幸生・戸田真紀子・中村香子・宮地歌織（編）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 171
3. 書名 グローバル・ディスコースと女性の身体－アフリカの女性器切除とローカル社会の多様性	

1. 著者名 須藤廣・遠藤英樹・高岡文章・松本健太郎（編）中村香子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 217
3. 書名 よくわかる観光コミュニケーション論	

1. 著者名 Hyden, G., Sugimura, K. and T. Tsuruta ed. Haruna Yatsuka & Kazunobu Ikeya	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 198
3. 書名 Rethinking African Agriculture: How non-Agrarian Factors Shape Peasant Livelihoods	

1. 著者名 Meguro, T., Ito, C. & Kirigia, K. eds. Iwai Yukino	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Langaa Rpcig	5. 総ページ数 373
3. 書名 'African Potentials' for Wildlife Conservation and Natural Resource Management: Against the Image of 'Deficiency' and Tyranny of 'Fortress'	

1. 著者名 V.Selvakumar and Manabu Koiso (eds.) Nobuko Nishizaki	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Tamil University, Thanjavur, India and Kobe Yamate University, Kobe, Japan.	5. 総ページ数 423
3. 書名 Historical and Archaeological Heritage Management and Cultural Tourism in India and Japan: Issues and Prospects for Development	

1. 著者名 清水 展 小國,和子(編著) 西崎伸子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 268
3. 書名 職場・学校で活かす現場グラフィー ダイバーシティ時代の可能性をひらくために	

1. 著者名 Meguro, T., Ito, C. & Kirigia, K. (eds.) Nobuko NISHIZAKI	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Langaa Rpcig	5. 総ページ数 373
3. 書名 'African Potentials' for Wildlife Conservation and Natural Resource Management: Against the Image of 'Deficiency' and Tyranny of 'Fortress'	

1. 著者名 五十嵐誠一・酒井啓子（編）丸山淳子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 248
3. 書名 グローバル関係学7 ローカルと世界を結ぶ	

1. 著者名 Meguro, T., Ito, C. & Kirigia, K. (eds.) Toshio MEGURO	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Langaa Rpcig	5. 総ページ数 373
3. 書名 'African Potentials' for Wildlife Conservation and Natural Resource Management: Against the Image of 'Deficiency' and Tyranny of 'Fortress'	

1. 著者名 深山直子、丸山淳子、木村真希子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 288
3. 書名 先住民からみる現代世界	

1. 著者名 丸山淳子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 288
3. 書名 「先住性と移動性の葛藤：ボツワナの狩猟採集民サンの遊動生活と土地権運動」深山直子・丸山淳子・木村真希子編『先住民からみる現代世界：わたしたちの あたりまえ に挑む』	

1. 著者名 丸山淳子・木村真希子・深山直子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 288
3. 書名 「いま、なぜ「先住民」か」深山直子・丸山淳子・木村真希子編『先住民からみる現代世界：わたしたちのあたりまえに挑む』	

1. 著者名 丸山淳子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 古今書院	5. 総ページ数 149
3. 書名 「南アフリカの先住民」が現れるまで：ポスト・アパルトヘイト時代のサンの挑戦」白石壮一郎・椎野若菜編『100万人のフィールドワーカーシリーズ：社会問題と出会う』	

1. 著者名 丸山淳子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 79
3. 書名 「狩猟採集民の移動と定住化」島田周平・上田元編『世界地誌シリーズ8 アフリカ』	

1. 著者名 白石壮一郎、椎野若菜、目黒紀夫、村尾るみこ、清水貴夫、横田祥子、福島万紀、碓陽子、丸山淳子、白波瀬達也、川端浩平、安岡健一	4. 発行年 2017年
2. 出版社 古今書院	5. 総ページ数 216
3. 書名 FENICS100万人のフィールドワーカーシリーズ7 社会問題と出会う	

1. 著者名 島田周平、上田元、成澤徳子、水野一晴、遠藤聡子、池谷和信、寺谷亮司、佐川徹、松村圭一郎、佐藤廉也、藤岡悠一郎、丸山淳子、伊藤千尋、小川さやか、大門碧、遠藤貢、福西隆弘、西浦昭雄、吉田栄一、目黒紀夫、荒木美奈子、松本尚之	4. 発行年 2017年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 163
3. 書名 世界地誌シリーズ8 アフリカ	

1. 著者名 岩井雪乃	4. 発行年 2017年
2. 出版社 合同出版	5. 総ページ数 136
3. 書名 『ぼくの村がゾウに襲われるわけ。 - 野生動物と共存するってどんなこと?』	

1. 著者名 八塚春名	4. 発行年 2018年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 244
3. 書名 「生業変容と土地をめぐる権利 タンザニアの狩猟採集民ハッザとサンダウェ」深山直子・丸山淳子・木村真希子編 『先住民からみる現代世界：わたしたちの あたりまえ に挑む』	

1. 著者名 松浦直毅	4. 発行年 2018年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 249
3. 書名 「困難に直面する森の民 アフリカ熱帯林に住む狩猟採集民の人道危機」湖中真哉・太田至・孫暁剛編 『地域研究からみた人道支援 - アフリカ遊牧民の現場から問い直す』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	西崎 伸子 (NISHIZAKI Nobuko) (40431647)	芸術文化観光専門職大学・芸術文化・観光学部・教授 (24507)	
研究分担者	八塚 春名 (YATSUKA Haruna) (40596441)	津田塾大学・学芸学部・准教授 (32642)	
研究分担者	中村 香子 (NAKAMURA Kyoko) (60467420)	東洋大学・国際学部・教授 (32663)	
研究分担者	松浦 直毅 (MATSUURA Naoki) (60527894)	椋山女学園大学・人間関係学部・准教授 (33906)	
研究分担者	岩井 雪乃 (IWA I Yukino) (80507096)	早稲田大学・平山郁夫記念ボランティアセンター・准教授 (32689)	
研究分担者	目黒 紀夫 (MEGURO Toshio) (90735656)	広島市立大学・国際学部・准教授 (25403)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 International Workshop "Pastoralism and Tourism in Eastern Africa Today"	開催年 2017年～2017年
国際研究集会 Internatinal Synposium "Tourism, Development, and Nature Conservation in Africa"	開催年 2023年～2023年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
ガボン	熱帯生態研究所			
コンゴ民主共和国	森林生態研究所			
タンザニア	セレンゲティ開発環境調査センター			
タンザニア	タンザニア野生動物研究所			
南アフリカ共和国	ステレンボッシュ大学			
カナダ	マギル大学			